

荖崎地区区会連合会 VOL: R4 - 1号



旧荖崎町の花
ひまわり

区会くきざき

発行 荖崎地区区会連合会
発行責任者 会長 小原 正彦
編集責任者 副会長 倉本 茂樹

令和4年度荖崎地区区会連合会及び

つくば市区会連合会総会報告

荖崎地区区会連合会副会長 倉本 茂樹

※「令和4年度荖崎地区区会連合会（40区会）総会」

4月21日(木)午後、荖崎交流センターにおいて開催されました。例年は、五十嵐つくば市長のご臨席を得て、親しくご挨拶頂くのですが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響が続いていることから、次の挨拶文が寄せられ、陪席の市民部荒澤市民活動課長の代読によって始まりました。

年度ご挨拶（抄） つくば市長 五十嵐 立青

区長の皆さまには、日ごろからつくば市政運営にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。本来ならば皆さまに直接お会いしてご挨拶したかったところですが、昨年度に引き続き、文書の形でのご挨拶とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大が、社会全体に大きな影響を与え続ける中、区長の皆さまの力強いリーダーシップにより地域が守られていることに心から御礼を申し上げます。様々な制約が伴う中、つくば市では、「誰一人取り残さない」包摂の精神のもと、市民生活と地域経済を守るための取組を進めております。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症への対応を最重要課題と位置づけ、引き続き、自宅療養者に対する物資支援や市独自のPCR検査のほか、ワクチン接種や経営支援ワンストップ窓口の設置など支援策等を通して、市民の安心につなげていきます。

さて、今つくば市では、新型コロナウイルス感染症の陽性者数が高水準で推移しています。ご心配の方も多いと思いますので、その要因についてご説明します。私も随時、感染症の専門医や市内の医療関係者と話をしていますが、第6波で市内の感染者数が多い要因としては、「他自治体に比べて医療機関が多いため検査が数多く行われていること」、「子どもの割合が多い人口構成のため、こどもの感染が起点となり家庭

内で感染が拡がること。」というのがおおよその共通した見解です。そして、「重症化は少ないので医療負担は第5波のような状況ではない。」ということも大きな特徴です。今後、飲み薬が普及することで、よりインフルエンザに近い扱いに変わっていくことが予想されますが、それまでの間、市としてもワクチン接種等を進めていきます。引き続き、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

また、別添の「つくば市令和4年度予算主な取組」にもあるように、科学技術都市・つくばの強みをいかして地域課題の克服や住民サービスの向上を目指す事業や、周辺市街地活性化事業などを推進していきます。令和4年度も、市民をはじめ多くの関係機関等とのつながりを力に、「ともに創る」市政を前進させていきますので、皆さまから引き続きお力添えを賜りますようお願いいたします。結びに、区長の皆さまのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

総会の内容は以下のとおりです。

- 議案の ①令和3年度事業報告・収支決算報告・会計監査報告 ②区会役員選出 ③令和4年度事業計画及び収支予算案（約156万円）の3議案とも満場一致で原案どおり可決しました。役員の選出については、会長に小原正彦氏（高見原三丁目）、副会長に倉本茂樹（森の里）・宮澤正氏（宝陽台）、会計に大山純一氏（高見原二丁目）、監事に久松雅彦氏（六斗） 垣本泉氏（梅ヶ丘） が選出され、会長から顧問に稲川誠一氏（あしび野）・中嶋修氏（小荖） が委嘱されました。
- 今年度の区会活動方針として ①くきざき夢まつりへの協賛 ②社会福祉協議会活動への協力 ③青少年を育てるつくば市民の会荖崎支部への協力 ④谷田川流域葦焼き連絡協議会活動への協力 ⑤各団体の協賛金等徴収活動への応援協力が挙げられております。



<荖崎地区総会>



<つくば市総会>

※「令和4年度つくば市区会連合会（603区会）総会」

5月20日(金)市役所において開催されました。総会に先立ち、ご臨席の五十嵐市長から、夏場に向けての専門家による新型コロナウイルスの見通しと市政への取組について説明がありました。総会は、①令和3年度事業報告②令和3年度収支決算報告・監査報告③役員改選④令和4年度事業計画⑤令和4年度収支予算(約1億2千百万円)⑥会則の一部改正が審議され、事務局原案通り可決・成立しました。

役員として連合会会長は、谷田部地区連合会会長の飯田哲雄氏、副会長に他地区連合会会長4名の他、小原正彦氏が選出されました。なお、飯田会長は、茨城県自治会連合会会長も兼務します。

区長就任にあたり

池向区長 山下 輝雄

社会活動への参加・協力、そして自治会活動に興味と関心を持ち、本年4月から区長を引き受ける事になりました。右も左も分からず引き受けたのですが、周囲の協力を得て船出する事が出来、ひと安心して

いるこの頃です。

今回 新たな仕事を頂き重責に身の引き締まる思いであります。今日の私があるのも偏に自治会の先輩方々の努力と、ご指導やご支援の賜物と深く感謝しております。

振り返れば44年前の1978年に自治会が発足し、集会所建設から38年になりますが、昨日の出来事のように思われます。なお、スタート当時は慌ただしい日々でしたが、お祭り・子供会の海水浴・盆踊りなど楽しい思い出が沢山あります。最近自治会内では、アフガニスタンからご家族6人が自治会に入会され、近隣住民の方々と翻訳機を通じて会話が見受けられました。また、ご年配の方々が最近新しく出来た道路の歩道を利用して散歩されている風景も見かけます。

来たる、高齢化社会について考えて見ると、総人口が減少する中で65歳以上の割合が増加しており2038年(令和20年)までに33・3%の割合で上昇が見込まれています。その時には、約2.6人に1人が65歳以上、約3.9人に1人が75歳以上という計算になり、ますます超高齢社会が進行する状況となります。

高齢社会の問題点として、これまでの制度や体制では対応しきれない問題が露呈してきています。

○医療や福祉のあり方 ○介護できる者がいない ○あるいは老いた人が老いた人の介護をする「老々介護」がさらに増えるという点が問題視されています。医療・介護等の社会保障に関する負担のバランスが崩れる中で自治会での活動の在り方を再検討する事が求められております。高齢者への負担増をどの様な形で軽減し、持続可能な自治会制度を

実現することが出来るか、社会保障制度の基本的な問題であると思われれます。この現状を維持するためには各自自治会内での対応として、近隣住民の方々の協力(自助・共助)の精神の啓蒙活動を高める必要があると思われれます。微力ながら、自治会内の会員一同で互いに助け合い、協力しあえる環境が出来れば幸いと思ひます。

最後に無事故・無災害を目指し、住民から信頼と親睦・交流関係の持てる自治会活動を目指し努力したいと思ひます。皆様には、より一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

区長として思っていること

高見原四丁目区長 橋本 幸雄

町内会は、本当に必要なのでしょうか？ 皆さんだったら、この問いにどう答えますか？

私は、町内会は必要だと思っております。その理由は、人はみんなで支え合って生きていくからです。昔から、集落、部落というように、人は固まって生活し助け合って生きてきました。

今は、電気・ガス・水道などのインフラも整備され、何不自由なく生活ができるようになって、人と人とのつながりが希薄になっています。そのため、隣近所と関わりを持たなくても生活ができてしまっているため、町内会へ加入しない方も増えているように感じています。

しかし、地震などの災害が発生したらどうでしょう？ 電気・ガス・水道が止まったら、これまでの便利な生活が一変します。そうなったら、みんなが助け合い、炊き出しをしたり、色々な物を貸し

借り合ったりしながら、支え合って生活しなければならなくなります。そういう場合には、町内会の存在が生きてきます。町内会への入会をお願いすると、町内会に入るメリットはなんですか？とよく聞かれます。そういう時、私はいつも、地震などの災害が発生した時は、隣近所で助け合いが必要になると言っています。東日本大震災がそれを物語っています。

四丁目区町内会では、地域住民が安心して暮らせるよう地域の防犯・防災パトロールの実施や、地域住民の交流を目的として、夏祭りやふれあいの集いなどのイベントも行ってまいります。また、今年5月には、四丁目会館の芝生の庭を利用し、初めて四丁目カフェ（コーヒー、ジュースなどを無料提供）を毎週土曜日合計4回実施し、延べ約100名の住民の方が来店してくれました。コロナで多くのイベントが中止になっている中、今回の四丁目カフェを通して、地域住民の方々の交流の場は、やっぱり必要だと痛感しました。今後も、地域住民の方に楽しんで頂けるイベントを実施していきたいと思っています。

今、四丁目区町内会では、地域住民の方々の高齢化が進み、町内会の役員、班長ができないと、退会する方も増えてきています。この流れは今後も続くことが予想され、このままでは町内会の継続が危ぶまれます。是非、新しく住民となられた方には、町内会に入会し一緒に地域を盛り上げて頂きたいと願っております。何卒、町内会活動へのご理解・ご協力のほど、よろしく願います。

令和4年度第1回区長会議の開催

荊崎地区区会連合会副会長 宮澤 正
 去る6月4日(土)荊崎交流センターの大会議室において、令和4年度第1回区長会議が開催されました。

今年度も荊崎地区区会連合会は約7割が交代した新人区長のため身近な問題についての情報共有が急務と判断し、市民活動課や荊崎相談センター及び社会福祉協議会等行政職員の出席をお願いして情報交換会を開催しました。

最初に小原区会連合会会長から、今回の情報交換会開催の趣旨について説明があり、議題は予め想定される悩みごとをレジメで提示し、項目毎に問題点やその解決策について討議し、必要に応じて行政職員のコメントを頂きました。特に「区費・募金等の徴収」に係るテーマでは、自治会費や寄付・募金の額及び区会への入金金や消防協力金等の有無は区会ごとに異なりますが、その徴収については自治会加入のメリットを問われ、入会拒否や退会要望が多く、区会の問題点として出されました。

また、「空き家、空き地」問題についても、適正管理されていない家主、地主との連絡が取れず、役所に問い合わせてもなかなか教えて貰えない等の問題が挙げられました。他に自治会役員の後継者問題等、時間の関係で討議出来なかった事項については、司会から項目と内容が紹介され、今後この種の意見交換会を継続的に実施する事とされました。なお、最後に次の事項について紹介及び報告がありました。

- ① 荊崎第二小学校有料スクールバス運行状況
- ② スマートシティ構想特区に宝陽台地区が選定
- ③ 6号国道「牛久・土浦バイパス」工事の資料配付と現状説明
- ④ 第二層生活支援体制整備事業体による「荊崎圏域版社会資源集」冊子の完成
- ⑤ デジタル化された新防災行政無線が荊崎7地区

で12月1日(木)に運用開始
 ⑥ 10月からプラスチックごみの回収が月2回から4回に改善
 以上のように、令和4年度第1回の区長会議は多勢の区長参加と行政職員及び高野市議会議員のご臨席を頂き、有意義な会議となりました。



<意見交換会風景>



生活支援体制整備事業について

「あなたの力 あなたの心 支え合う」

くきざき

顧問 稲川 誠一

地域包括ケアシステム

つくば市は、2025年（令和7年）を目途に、高齢者の自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしが続けられるよう地域の包括的な支援・サービスの提供体制（地域包括ケアシステム）の構築に向け推進しています。整備事業の目的を果たすために考えられたのが地域包括ケアシステム（以下「ケアシステム」）である。厚労省が主体となつて進めている事業で構築のプロセスとしてPDCA

サイクルの手法があり、これを効果的に繰り返すこと
 によって課題の改善に取り組んでいくものでPlan（計
 画）・Do（実行）・Check（評価）・Act（改善）
 がある。具体的には、地域包括支援センターの設置、
 生活支援体制整備事業、地域ケア会議、医療と介
 護の連携、生活支援と高齢者の社会参加などである。
 生活支援体制整備事業は、このケアシステムの中にあ
 る生活支援・介護予防が我々地域住民の守備範囲に
 なる。配食・見守り・交通アクセス・ゴミ出し・庭木
 の剪定等の支援などに加え、元気な高齢者が積極的
 に社会参加することにより生きがいを見つけ、介護予
 防（認知症など）にもつなげるものとなっている。荖
 崎地区では、つくば市社会福祉協議会南支所が第二
 層協議体のコーディネーターとなり、荖崎圏域版社
 会資源集を完成させコアメンバーなどによる事前協議
 を踏まえて「地域支えあい会議」を続けており、社
 会資源集を活用して情報の交換を進めて共通の課題
 について取り組んでいこうとしている。

地域包括ケア・生活支援・介護予防の理想図



荖崎庁舎跡地利活用に関する地元 説明会及びタウンミーティング

荖崎地区区会連合会会長 小原 正彦
 ※荖崎庁舎跡地利活用説明会

6月10日(金)及び11日(土)に荖崎保健センターにおい
 て、都市計画部公有地利活用推進課による説明会
 が行われました。

平成22年以来、数回に亘る当区会連合会から
 の要望が受け入れられ、庁舎跡地約2,700㎡に
 1,000㎡程度規模の小売店(食料品、日用品)が、
 令和5年6月頃オープンする予定です。併せて荖崎
 保健センターの改修工事が行われ、その利用が拡大
 します。

※タウンミーティング

5月14日(土)谷田部地区から始まった五十嵐市長
 と市民が語らう「タウンミーティング」が荖崎地
 区においては、6月18日(土)ふれあいプラザにおいて開
 催されました。

最初、市長からスライドを用い
 た①徹底した行政改革 ②安心
 子育て ③頼れる福祉 ④便利な
 インフラ ⑤活気ある地域 ⑥誇
 れるまちを柱としたマニフェスト
 等市政についての説明があり、そ
 の後出席の荖崎地区住民(約30
 名)と市長との意見交換が活発
 に行われました。

要望の中には、荖崎相談セン
 ター(0299・8833・1384)マ
 ターのものがあり、その解決には
 同センターの利用が望まれます。



<説明中の市長>



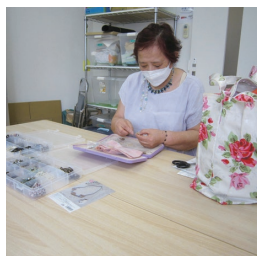
<荖崎庁舎跡地>

シニアの生き方紹介シリーズ⑩ ビーズアクセサリーに魅せられて

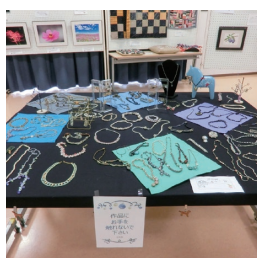
森の里 渡部 喜美子

友人から勧められてビーズアクセサリーのお教
 室に通い始めて数年が経過しました。初めのうち
 は、「自分の好きなネックレスが作れると良いかな」
 程度の想いで教室に通っておりましたが、ビーズの
 色や形に魅せられて、色々な形や色の作品が増
 えて、自分では使われないかなと思うものまで、作製
 するようになりました。

ビーズは色がきれいで、キラキラしていて毎日み
 ても飽きません。例年行われている森の里の文
 化祭に作品を出展して、皆様に見て頂いておりま
 す。初めは作品の数が少なく、与えられたテー
 ブル一つ埋めるのがやっとでしたが、今ではテー
 ブルを三台使用するまでになりました。ご覧下さ
 った方から、作品を譲って貰えないかとの声もあり
 ます。それを励みに今後ともライフワークとして
 続けてゆきたいと思っております。



<製作中の筆者>



<文化祭展示作品>

編集後記

新年度が始まって3カ月、新しく就任されたお
 二人の区長さんから、想いを寄せて頂きました。
 4回目の新型コロナウイルスワクチン接種が始まり
 ましたが、油断することなく過ごしたいものです。

(編集子)